

私たちの「働く意味」って、なんだろう？

職員パーパス策定プロジェクト ～第1回ワークショップの記録～

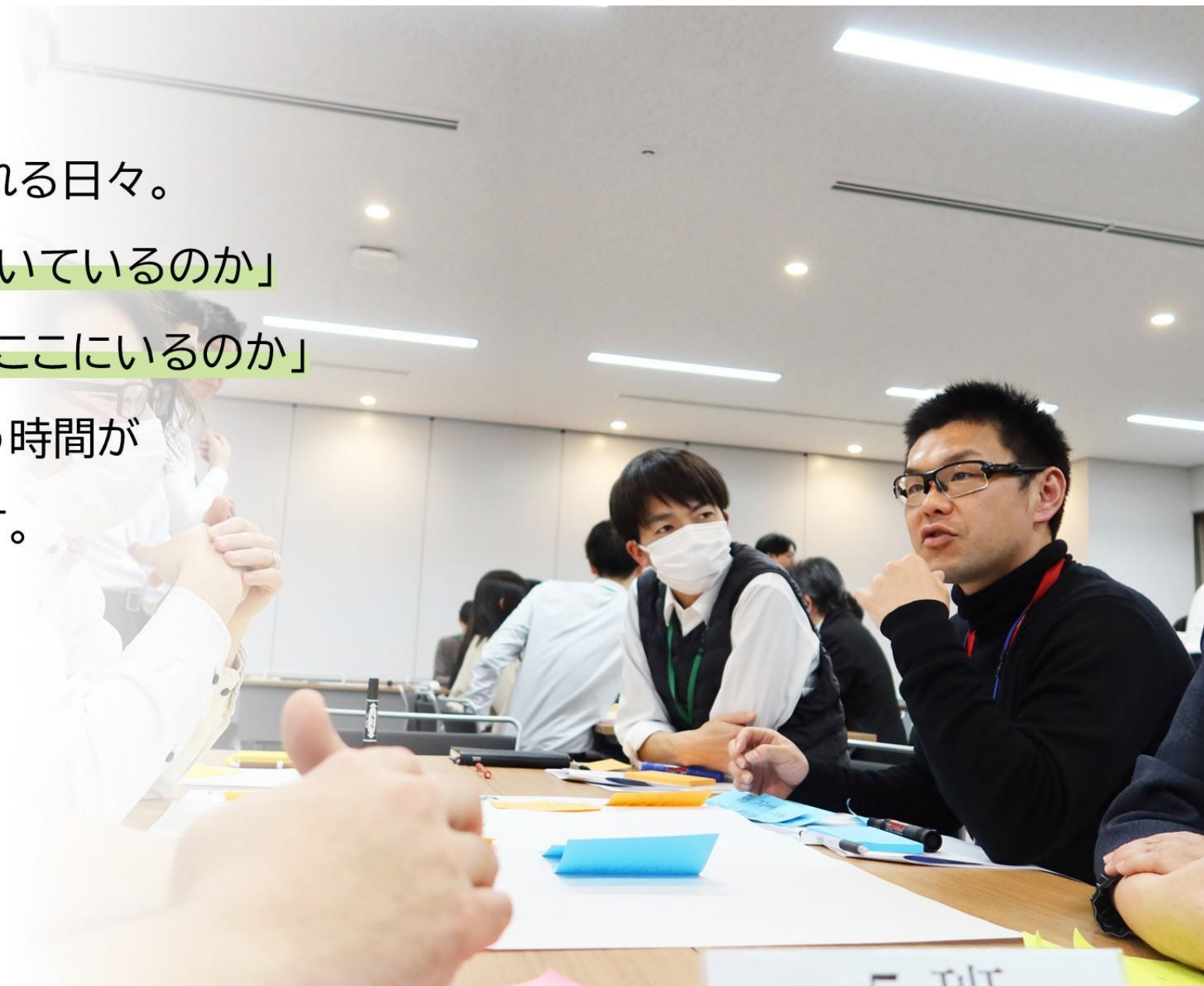
総合政策部 経営戦略室 ヒューマンリソース戦略課

目の前の業務に追われる日々。

「私たちは何のため働いているのか」

「私たちは何のためにここにいるのか」

そんな問いに向き合う時間が
あってもいいはずです。





堅苦しい講義は
ありませんでした。
行ったのは、
シンプルな対話だけ。
最初は戸惑いもありました。

「正解がないからこそ、
難しい」けれど、
「正解がないからこそ、
自分の言葉で話せた」。

「意外とみんな、
同じようなことで悩んでいたんだ
と分かって安心した」

「普段は話さない課の人と、
こんなに熱く語り合える
とは思わなかった」





役職も、年次も忘れて、
そこにあったのは
否定の無い「安全な場」。

誰もが対等に、
一人の人間として
未来を語り合う空気が
生まれていました。

この「揺らぎ」こそが、
大切な成果の一つです。

伊丹の「今」と「これから」を見つめ直す、4つのワーク。
そこから見えてきたのは、現場のリアルな葛藤と、伊丹への確かな愛着でした。



ワークショップ
4つのWORK

- 【WORK1 現状の直視】伊丹の課題は何か？
- 【WORK2 理想の追求】どんな市にしていきたいか？
- 【WORK3 再発見】伊丹らしさ・魅力・価値
- 【WORK4 隠れた自慢】あなたが心から誇れることは？

【WORK1 現状の直視】伊丹の課題は何か？

人手不足や閉塞感、「選ばれない街」になってしまうのではという危機感。

直視した現状から出てきたのは、クリアすることで理想に近づける「進化のヒント」でした。



<「組織」の課題>

- リソースの枯渇
- 組織の「壁」と内向きな風土
- DX・スピード感の欠如
- 戦略と現場の温度感
- 広報発信力の弱さ

<「まち」の課題>

- 都市ブランドの発信
- 物理的・地理的限界
- インフラ・交通の不便
- 地域の担い手不足
- 教育・健康の懸念

【WORK2 理想の追求】どんな市にしていきたいか？

風通しが良く、挑戦できる組織。

車がなくても便利、ずっと居たい、働き続けたいと思える寛容な街。

職場や立場が違って、私たちには共通する想いがありました。



<理想の「組織」>

- 心理的安全性と風通しの良い組織
- 働き方の適正化と効率化の実現
- 挑戦とやりがいを醸成する職場
- 誠実な対応ができる集団
- 情報共有による市民との信頼構築

<理想の「まち」>

- 「選ばれる街」へのブランド改革
- 定住意欲とシビックプライドの向上
- 「ちょうどいい」という価値観の共有
- 移動とインフラが最適化された暮らし
- 多世代が共に輝くコミュニティ

【WORK3 再発見】伊丹らしさ・魅力・価値

坂のない平坦な街、見上げる広い空。

穏やかだけどバイタリティのある市民の熱量。

伊丹という街の持つ「らしさ」と「価値」を、
改めて見つめ直しました。

- 立地・環境:

平坦な地形でつながる「空」と「世界」

- 安心・安全:

「守られた街」としての盤石な基盤

- 市民性・コミュニティ:

「伊丹愛」が育む温かさと活気

- 行政組織のポテンシャル:

変化への柔軟性とワンチーム



【WORK4 隠れた自慢】あなたが心から誇れることは？

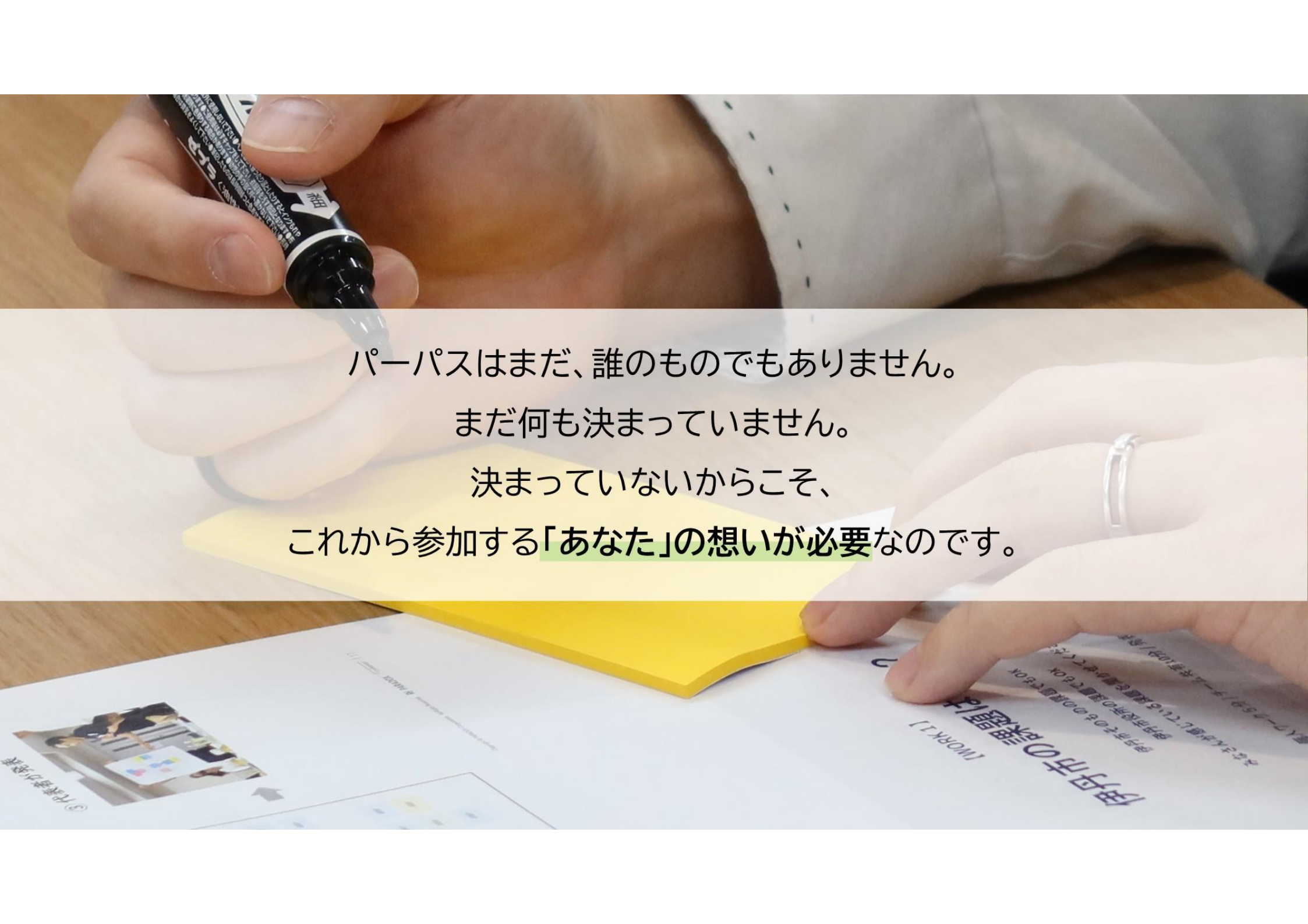
市民とそれを支える職員の人間力や、
独自の文化・歴史の数々。

私たちが普段

「当たり前」だと思っていることは、
実は心から誇れる「隠れた自慢」でした。

- 卓越した公共サービス・技術
- 組織と人の魅力
- 独自の文化・資産・産業
- 生活を支える基盤

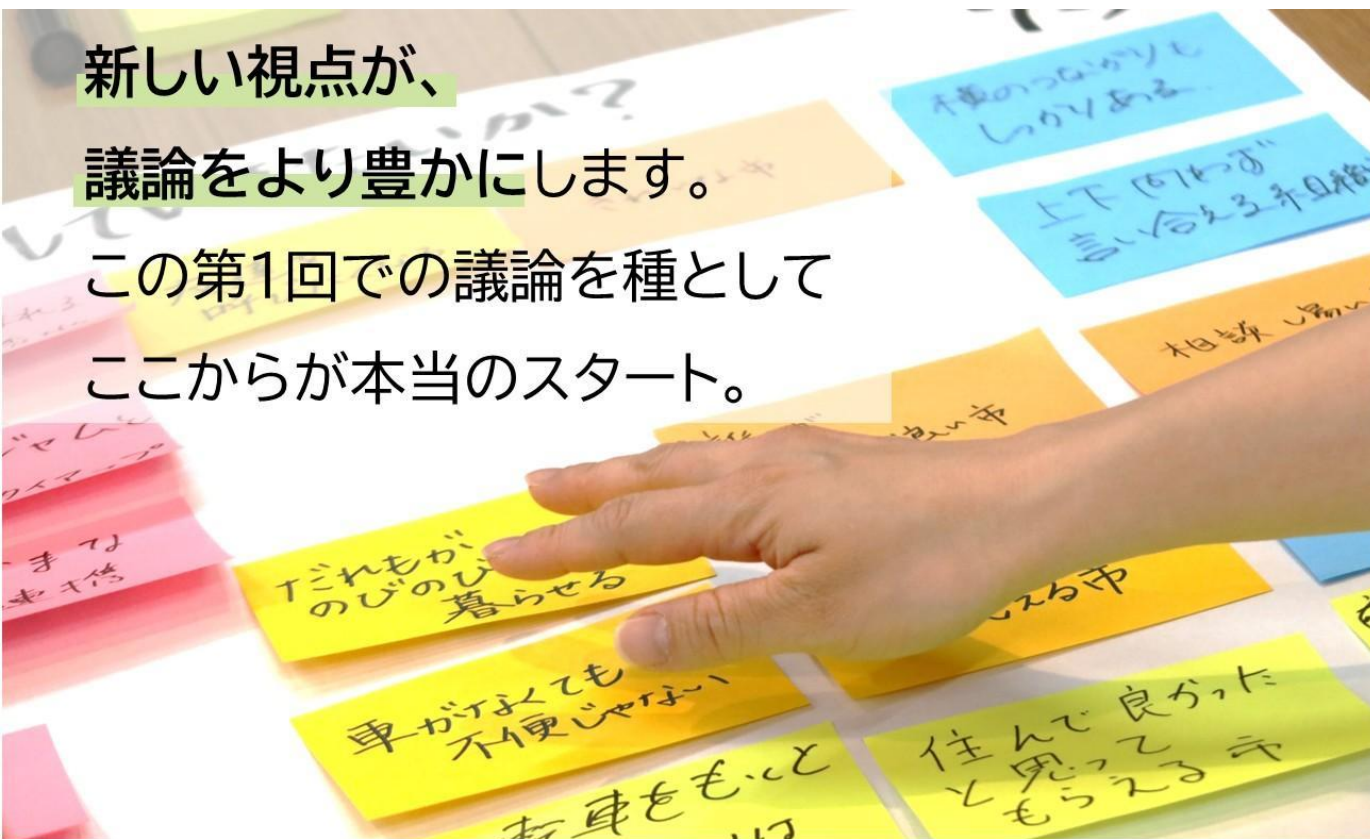




パーパスはまだ、誰のものでもありません。
まだ何も決まっています。
決まっていないからこそ、
これから参加する「あなた」の思いが必要なのです。

新しい視点が、
議論をより豊かにします。

この第1回での議論を種として
ここからが本当のスタート。



一緒に、未来の話をしませんか？



中田市長より、本日の感想

皆さん、お疲れ様でした。脳をフル回転させるワークで、普段の業務とは違う疲れがあったかと思います。今回のアウトプットは、必ず組織や日々の業務に還元されます。私は「伊丹市役所の人を活性化させること」こそが、街を良くするための最優先事項だと真剣に考えています。皆さんはそのキーパーソンです。ぜひ職場に戻って、今日のポジティブなエネルギーを周りに巻き込んでいってください。これからも皆さんの活力を組織力に変えていけるよう取り組んでいきます！